

鹿児島の火山④

諏訪之瀬島の御岳

地質担当 前田利久

トカラ列島は屋久島と奄美大島の間に連なり、新旧様々な火山からなる火山列島です。諏訪之瀬島は、トカラ列島の中で中之島に次いで2番目に大きい島で、中央部の御岳(標高 799m)は現在でも活発に噴火を繰り返しています。昨年(2007年)の爆発回数は70回で、桜島の爆発回数(10回)を上回っています。

島には御岳を始めとして、^{とんだち}富立岳、^{すざき}須崎火山、^{ねがみ}根上岳などの火山体が北北東-南南西に並んでいます。また御岳から東側には、大規模な崩壊によってできた^{ぼてい}馬蹄形のカルデラがあります。

諏訪之瀬島の活動は80万年以上前から始まったと考えられています。過去200年間には8回の噴火が認められ、山腹の道路脇には火山弾やスコリア(多孔質の火山れき)などが幾重にも層を作っています。1813～14年(文化年間)の噴火は特に大きく、島の南岸の



集落でもスコリアが50cm以上積もったために、島民は島外に避難し、以後70年間は無入島となりました。明治時代になって奄美大島から移住した開拓団も、翌年の噴火に苦しめられたと聞きます。

現在、御岳火口付近の周囲2kmは火山活動のため立入禁止となっています。3月の調査で山腹を歩いた際も、風向きによっては硫黄臭がありました。それでも、スコリアが露出した斜面に、マルバサツキがピンク色の花をつけ、生命のたくましさを感じます。

鹿児島の植物⑩ 春の妖精 spring Ephemera ミチノクフクジュソウ

植物担当 寺田仁志

妖精はかわいくすばしっこい。ほほえみに見とれていると、すぐに消えてしまう。ミチノクフクジュソウはまさにその通りだ。

この妖精は2月末に忽然と現れ、開花し、美しい姿態を見せつける。かわいいからといって食べてはいけない。毒を持つキンポウゲの仲間だ。花が咲き種子が成熟する6月にはまたまた忽然と消える。

妖精の棲む場所は秘密。心ない人に襲われて激減しているから。県では条例で「指定野生動植物の種」に指定して採集を禁じている。

妖精はしたたかだ。フクジュソウの仲間のすみかは落葉樹林内。この森は4月頃までは葉が繁らない。2～3月は光を独占できる。春の日差しは驚くほど強くなっている。この間に芽が出て、花が咲き、種子を作り終える。5月に入って落葉樹の新葉が地表を覆うと今まで蓄えた養分を地下に送り込み長い休眠にはいる。休眠中でも乾燥したら生きていけない。そこで鹿児島では日が当たりにくい谷間

の北西斜面を選ぶ。

この妖精は鹿児島では人の暮らしと関係している。鹿児島では標高が1000mまでは常緑広葉樹林帯だ。500m程度の標高に生えているが、これは牧畜や薪炭をとるために定期的に野焼きや伐採、植林が行われ森がクヌギやコナラ、アカメガシワなどの落葉樹林に変わったからだ。

森を放置したら常緑樹や竹がはびこり年中暗くなり、妖精は逃げ出してしまう。鹿児島では人の管理が必要な植物の一つだ。

